

ゼミナール紹介

担当者名	飯野 守
e-mail アドレス	iiiiinox@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3306
在室曜日・時限	木曜日の昼休み、3限ほか ※面談を希望する人は「2020年度情報社会学科ゼミナールに関する補足情報」を見て希望時間帯をお知らせください。
個別説明会 (日時・場所)	予定していません。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	「2020年度情報社会学科ゼミナールに関する補足情報」を参照してください。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、知的財産法、日本国憲法
2019年度担当科目	情報社会と法ほか
授業概要	<p>本ゼミナールでは、メディア/コミュニケーションと法に関わる課題を扱います。とはいうものの、入り口は何でも構いません。例えば、コミケ（いわゆる二次創作）、動画投稿サイト、あるいは、リーチサイトなどです。各自が関心を持ったことを素材として、法的な課題としてどう捉えるか、解決の方向をどう考えるかを学びましょう。</p> <p>春学期は基礎知識を確認するための基本的文献の購読、並びに、個人の研究の準備を行います。秋学期は主として各自が決めた研究テーマについて報告をしてもらい、皆で討論をしながらテーマを深めていくこととします。</p> <p>メディア/コミュニケーションと法に関わる様々な課題について、その問題の所在や解決すべき課題を発見でき、どのような解決方法が適切であるかを自分で判断することができること、さらに、これらのことについての的確に発表あるいは表現することができる力を身につけることを全体の目標とします。</p> <p>ニュースで報道されるようなトラブル事例や、身の回りにある素材について法的な視点から分析して解明する力を身に付けることは将来必ず役に立つはずで。</p> <p>なお、希望者には「知的財産管理技能検定」の受験を勧めています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	火曜 3 限
個別説明会 (日時・場所)	予定なし
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜 2 限(3315 研究室、事前連絡要)
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	消費者行動論、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、社会心理学、 情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A
2019 年度担当科目	消費者行動論、マーケティングリサーチ演習、マーケティングリサーチ、マーケティング
授業概要	消費者行動またはメディアに関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けて実証研究を行う。たとえば、テーマの例として、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選ぶ。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をいくつか読んでから決める。多くの学生はアンケート調査を行うと思われるので、統計分析の基礎知識がある学生が好ましい。

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6219 研究室 (6号館2階)
在室曜日・時限	毎週月曜日の昼休み,3,4,5 限,火曜日 1,2 限,昼休み,5 限,水曜日 1~5 限,昼休み ※10/2(水)は不在 場所:6219 研究室 ※不在もあるので希望日時を事前にメールすると確実に説明を受けられる。
個別説明会 (日時・場所)	毎週月曜日昼休み,3,4,5 限,火曜日 1,2 限,昼休み,5 限,水曜日 1~5 限,昼休み 場所:6219 研究室 ※不在もあるので希望日時を事前にメールすると確実に説明を受けられる。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	9月25日(水)~11月20日(水)の毎週水曜日 1,2 限の「ゼミ」で自由な時間帯に見学できる。 ゼミ生全員の研究ポスターを展示し、概要説明します。場所:6227 教室(6号館2階)
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、情報社会の分析と理解、総合演習 A・C、キャリア研究 C、基礎演習 B ※未来の情報社会に関心があり、スマホアプリが使えるれば、IT の専門知識やプログラミング技術の必要性は全くない。
2019 年度担当科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、キャリア研究 C、ビジネスデータ処理演習、 情報社会の分析と理解、意思決定の科学、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習 A・C
授業概要	<p>本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身が関心のある分野を自由に研究する。 また、各人のゼミナールの成果は教室や合宿などで発表し、IT 実務者のコメントを得る。</p> <p>1.ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢を探求する。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力、発想力、閃き ③AI & IoT 活用のビジネスモデルを創成する。(注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア、しくみづくり ※ AI=Artificial Intelligence・人工知能 IoT=Internet of Things</p> <p>2.ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから自由に選択できる。</p> <p>①情報社会で進化する「AI & IoT アプリ,ウェアラブルセンサー,スマートスピーカー,AI 翻訳,AI 作曲, 5G,電子マネー,ロボット,AR・VR・MR・CG,アニメ,アバター,3D プリンタ等」の応用研究や制作する。 ②AI & IoT アプリ,会話型ロボット,シェアリングエコノミーの活用でビジネスモデルを創造する。 ③ICT スポーツ科学,ヘルスケア&メンタルヘルス改善,集中度分析,ストレスデータ分析,脳科学分析,他 ④ビッグデータの分析によるマーケティング,消費者行動,商品ロコミ分析,CM 効果分析,VR 観光効果 ⑤SNS,メディア・プラットフォーム活用のビジネスモデル企画 (例)YouTube, Facebook, LINE, Instagram 等活用</p> <p>3.ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日 2 限に指定した PC 教室で実施する。テーマに必要な教材やツールを準備する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来のビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①体験成果のビジネスモデル展開,事例研究,キャリア研究,スペシャリスト,企画力を磨く。 ②論文作成力,プレゼンテーション,リーダシップ能力と資格取得,潜在能力を引き出す。 本ゼミナールは将来の情報社会の進化に不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。 様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学の養成と IT 活用で情報社会をデザインする！</p> <p>《メッセージ》IT 応用システム体験から、情報社会のニーズにマッチした IT メディア構想や 就活にも役立て、ゼミ仲間と一緒に考え、実体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。 IoT や AI の多種のスマホアプリを巧みに活用して「イノベーション(改革的発想)」を創造しよう！</p>

ゼミナール紹介

担当者名	大橋洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3・4限
個別説明会 (日時・場所)	特段開催はしませんが、ゼミの見学は自由です。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜日 2時限目
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2019年度担当科目	データ分析総合演習 統計学入門 調査集計法 A 調査集計法 B 情報社会における計量社会学入門 情報技術総合演習 情報学序論
授業概要	<p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①データサイエンス分野の分析手法の習得 ②分析に基づいた商品開発の体験 <p>春学期には、データ分析に広く応用がなされるようになってきたプログラミング言語の使い方や、データハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。現在のところ、プログラミング言語としては「R」や「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として、火曜日昼休み・3限、水曜日昼休み、金曜昼休みに対応可能です。ただし会議やその他の業務の都合で不在の場合も多いです。予定はわかり次第 web サイト (https://w.atwiki.jp/isakuma) の「2020 年度ゼミナール紹介」にも掲載しますが、事前にメール (isao@shonan.bunkyo.ac.jp) でアポイントメントを取ることをお勧めします。
個別説明会 (日時・場所)	決まり次第、web サイトの「2020 年度ゼミナール紹介」に掲載します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	決まり次第、web サイトの「2020 年度ゼミナール紹介」に掲載します。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・社会心理学を履修していることが望ましいです。 ・統計学入門、調査集計法 A・B、マーケティング・リサーチなどをはじめとしたデータ収集と分析系の授業を履修していることも望ましいです。
2019 年度担当科目	社会心理学、説得コミュニケーション論など
授業概要	<p>本ゼミナールは、社会心理学研究（実験、調査、内容分析、二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究）を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、例としては、「ネット依存がコミュニケーション能力に及ぼす影響」「子ども向けアニメの内容分析」「SNS 利用が対人関係に及ぼす影響」「送り手の専門性が説得の効果に及ぼす影響」「姿勢やしぐさが印象に及ぼす影響」「ステレオタイプが対人認知に及ぼす影響」などが研究テーマとして挙げられます（もちろんこれらに限定しません）。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 2 つの課題になります。</p> <p><u>(1) グループ研究</u>：グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。本年度は自分たちで質問項目を作成して「地域」「アパレルブランド」「スポーツ」に対する態度とイメージを測定するという実習を実施しました。</p> <p><u>(2) 文献の収集と発表</u>：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めて文献を収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいました。本年度のテーマ例としては「服装が印象形成に与える影響」「暴力的描写が攻撃行動に及ぼす影響」「ゲーム依存の原因と対策」「インターネット・コミュニケーションにおける匿名性」などです。発表を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	火・水・木
個別説明会 (日時・場所)	決まり次第メールで連絡します。 メールや個別での面談も可能です。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜日・2限 7号館3階 情報システム室内(予約不要。10月3日不在)
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目など
2019年度担当科目	プロジェクトマネジメント、成功のプランニング、人間愛と情報社会など
授業概要	<p>本ゼミナールでは情報社会に関わる諸問題をテーマに学習を進め、卒業論文としてまとめていきます。ゼミや卒業論文のテーマは、教員が理解、指導できる範囲であれば、学生の提案を受け入れます。</p> <p>また、将来の進路を考える機会も設けていきます。学会への参加や企業の方と面談など、様々な機会を活用して、企業就職や大学院進学といった進路選択について考える機会を設けていきますので、積極的に参加して欲しいと思います。</p> <p>情報社会学科は「情報社会」について考え、問題や課題を解決する方法を求める学科です。ゼミのテーマや、これに繋がる卒業研究のテーマも、「情報社会」に関連することが求められますが、現代社会に生きる私たちにとって、これはとても日常的なことと言えます。</p> <p>大事なことは、情報社会学科で学んだことを第三者に説明できるように、意欲をもって、丁寧に学習を進めることです。これは、自らのアイデンティティを得ることであり、職業に就くためにも、その後にも自らの利益の基礎になるものです。</p> <p>以下は、先輩たちが選択したものや、本ゼミナールで想定されるテーマの一部です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>どのようにソフトウェアや情報システムをつくるのか?</u> 「チームの作り方」や「働く人のモチベーション(やる気)の保ち方」、「コミュニケーションの取り方」、「作業の進め方」、「リスクの予想と対策」「働き方」などがキーワードです。 ・ <u>デジタル化がもたらすメディアやコンテンツビジネスの変化と対応</u> 「書籍(紙)ビジネスの衰退」や「放送(TVやラジオなど)の有り方、作り方の変化」、「漫画やアニメ、ゲームなどの作り方とコンテンツビジネスの変化」などがキーワードです。 ・ <u>情報社会が生み出す社会変化や犯罪への対応</u> 「SNSを用いた誹謗中傷や悪意のある個人情報流布」や「食糧問題」、「環境問題」、「超高齢社会と福祉、働き方」、「ファッション」、「マーケット」などがキーワードです。 ・ <u>RPAや人工知能など、比較的新しいビジネスツールの活用</u> <p>卒論は研究というよりは「学習」なので、教員が理解できるテーマであれば何でも良いのですが、一応、テーマ選択の参考のために、教員の専門分野を示しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>元々は「数理統計学」が専門です</u> 滅多にいないとは思いますが、もし興味のある人がいれば一緒に考えましょう。

・ 教育・学習支援システムの構築

一時期は教育・学習支援システムの構築もやっていたので、興味のある人はテーマにしてもいいです。但し、教育は教わることよりも難しいことですので、よく考えない中で取り組むようなテーマではないと思います。

IT パスポートや基本情報などは、ITSS という枠組みに従って資格認定を行っていますが、この制度の創設にも関わってきました。日本の企業は社内の資格制度を ITSS に従って構築していますし、PMI や IPMA の国際団体も様々な独自の制度を作っています。学習支援システムとは異なりますが、情報社会に求められる教育と資格について考えてみることも大切なことです。

・ 最近の専門はプロジェクトマネジメントです

特に政府や銀行、企業の活動を支えるなどといった大規模システムの構築方法に興味があります。関連して、国際標準化機構 (ISO) の日本代表、国交省、経済産業省などの専門委員会の委員長や委員、世界 72 の国が加盟する IPMA の日本代表を務めるほか、日本の主要 IT 企業のほとんどが参加するプロジェクトマネジメント学会の会長を務めています。

ゲームとか食品などの開発もプロジェクトマネジメントが適用されています。

要は、多人数や多くの部門が集まって1つのモノを作ろうという活動がプロジェクトです。これまでに、いくつかの食品会社やゲーム会社のお手伝いもしてきました。CEDEC というゲーム関係の会議では、ゲーム開発のプロジェクトマネジメントをテーマに、過去最大数の集客を得たこともあります。

・ 科技厅の原発関連の専門委員も務めています

少し情報社会からは離れますが、福島原発事故以前から専門委員を務めていますので、それなりに事情には詳しいので、情報社会から未来に向けてのエネルギー問題などを考えてみたい人がいればテーマとして考えられるものです。

・ IT 関連の研究や活動については、図書館のデジタル雑誌の検索で探してください

J-STAGE や日経 BP の雑誌類などに多数ありますので、参考にしてください。

ゼミナール紹介

担当者名	西尾好司
e-mail アドレス	Knishio3@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3403
在室曜日・時限	月曜 3 限、火曜 3 限 水曜 昼食時
個別説明会 (日時・場所)	10 月 14 日 (月) 3 限、10 月 15 日 (火) 3 限、10 月 16 日 (水) 12:40~13:15
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	なし
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	「情報社会のビジネスモデル」、「ビジネス・イノベーション」、「情報社会における問題の発見と解決」、「ビジネス発想法」
2019 年度担当科目	上記に同じ
授業概要	<p>担当教員は、新製品やサービスの開発などのイノベーション活動、中小企業のデジタル化、研究開発活動のリーダーシップ、市民参加型のソーシャル・イノベーション、ICT の生活や社会への影響などの研究をしています。</p> <p><目的と主な活動></p> <p>本ゼミナールは、秋学期終了時に卒業研究のテーマや研究の方針を確定することを目的として、以下の 2 つの活動を中心に進めます。</p> <p>① ビジネスモデルや経営、イノベーションに関する文献の輪読 (全体)</p> <p>② 各自が設定したテーマでの文献・事例調査、発表及び議論</p> <p><ゼミの進め方></p> <p>春学期では、企業活動の理解を深めるために、ビジネスモデル、経営、イノベーションから基本的な書籍 (新書か文庫) 選び、全員で輪読・議論 (上記①) を行い、各自の関心を具体化していきます。秋学期では、各自の関心から卒業研究のテーマを設定するための準備段階として、個別テーマで文献や事例調査を行います (上記②)。これは、4 年次の卒業研究のテーマの実現可能性を探る意味もあります。</p> <p><研究テーマの例></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業のイノベーション活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新製品・サービスの開発とビジネスモデルの役割 ・ エコシステムを活用して事業化を進めるリーダーの特徴と役割 2. 地域レベルの課題の解決 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業のデジタル化の対応とその影響 (大学周辺地域の企業を中心に) ・ 地域課題の解決における市民参加活動、地方自治体の変革 3. ICT の生活や社会への影響 (AI の仕事や職業への影響、依存症への対応) 4. ICT の新たな活用 (教育分野)

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	火曜日 2 限は在席率が特に高いです。ほかに月曜日、水曜日も大学にあります。面談は事前にメールをいただくと確実です。
個別説明会 (日時・場所)	10/16 昼休み(12:40-) 研究室(3302)で開催
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	ゼミの開催場所は研究室(3302)で、毎週水曜日 2 限に見学可能です。事前に連絡をいただくと対応しやすいですが、飛込でも構いません。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	司書課程科目
2019 年度担当科目	データベース入門、総合演習 A、総合演習 C、データモデリング、図書館情報技術論、情報サービス論、情報サービス演習、ソフトウェア開発計画、図書・図書館史
授業概要	<p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。なお、図書館情報学は図書館のサービスや資料に限らず、検索システム、情報行動と幅広い分野を含んでいます。研究範囲内のテーマはもちろん、それ以外の研究テーマについても学生の熱意には応えます。在籍中のゼミ生(司書課程の開講前に入学)は SNS の利用やゲームクリエイター、報道、ゲームアーカイブについて調べております。</p> <p>ゼミでは 3 年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたいうで議論をしていくことになります。4 年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。</p> <p>合宿などの授業外活動は学生の意思を尊重します。せっかくゼミでやるなら、ただ遊びに行くのはもったいないので、合宿なら地方の図書館を訪問するなど、ゼミでしかできないようなことをしたいと考えています。</p> <p>論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	金曜以外はほぼ毎日いると思います。
個別説明会 (日時・場所)	火曜日、水曜日のお昼休みに 1115 研究室で対応します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	随時、連絡を頂けると対応します。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会における都市計画
2019 年度担当科目	情報社会における都市計画、社会システムモデリング、不確実性とリスクのマネジメントなど
授業概要	交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来ます。また、SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など就職対策も学内でも有数の実績があります。

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	事前にメールにて連絡願います。
個別説明会 (日時・場所)	日時：10月16日(水) 12:40～13:00 場所：3103 教室予定
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月16日(水) 2時限 11:00～12:30 場所：3103 教室予定
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	「システム分析」「システム設計」「企業活動と情報システム」
2019年度担当科目	「システム分析」「システム設計」「企業活動と情報システム」
授業概要	<p style="text-align: center;">【ゼミナールⅠ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自が希望する特定分野（業種・業態、技術等）について、教員とテーマを決め、文献を調査により研究領域を限定していくことを学ぶ。 ● 「ICT が実際どのような現場の問題をどのように解決していけるか」を知る機会として IT 企業訪問を含むゼミ合宿を実施する。 <p style="text-align: center;">【ゼミナールⅡ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミナールⅠでの各自のテーマについての文献調査を深める。 ● データ収集のための調査、および分析の方法を学ぶ。 ● アンケート調査の実施・およびそのデータ分析を実施する。 ● 研究論文作成のプロセスを個人プロジェクトとして遂行し、論文作成演習として学会への投稿と発表を目指す。 <p>ゼミナールを通じて、以下の実践的スキルを修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文献調査 ② 調査目標の設定と具体的実施内容の設計 ③ 調査（インタビュー・アンケート等）による課題・ニーズのデータ収集 ④ “R”スキルの知識取得とデータ分析での実践（大橋ゼミとの共同授業） ⑤ 分析結果から結論への導き方 ⑥ ソリューションの提案（任意） ⑦ 学会論文の執筆（有志） <p>本ゼミナールでは学士論文の作成することも目標に、それに必要な問題を見つけ解決する力、分析する力、及び提案する力を培うことを狙いとします。</p>